

令和6年度第3回三郷市地域公共交通活性化協議会

1 開催日時：令和7年1月30日（木）10時00分～12時05分

2 開催場所：三郷市役所 7階 大会議室

3 出席者 18名（委員総数24名）

（委員）

城津守会長（以下、城津会長）、多田聡委員、杉岡耕一委員（代理出席 山中）、
三浦裕樹委員（代理出席 渡辺）、川島磨委員、関根肇委員、中村浩之委員、相川淳一郎委員、
中村秋男委員、相馬喜一委員（代理出席 広瀬）、高木純子委員、
北沢一樹委員（代理出席 光本）、志子田健一委員、高橋和貴委員、阿久津邦子委員、
茂呂義雄委員、鈴木雄委員（WEB参加）、村上晶彦委員

（事務局）

川端まちづくり推進部副部長（以下、まちづくり推進部副部長）

都市デザイン課：谷口都市デザイン課長（以下、都市デザイン課長）、

鏡都市デザイン課長補佐兼交通政策係長（以下、都市デザイン課長補佐）、
今井主任、野副主任

4 協議会

（1）開 会

●（まちづくり推進部副部長）

[開会]

[配布資料の確認]

（2）会長あいさつ

●（城津会長）

[会長あいさつ]

[委員の出席状況を求める]

●（都市デザイン課長）

[委員24名中18名が出席していることを報告]

●（城津会長）

[出席状況を受け、協議会の成立を報告]

●（全委員）

[委員名簿順に自己紹介]

●（事務局）

[事務局職員の自己紹介]

●（城津会長）

[会議の公開・非公開について説明を求める]

●（都市デザイン課長）

[会議の公開・非公開について説明]

●（城津会長）

[公開することについて意見聴取]

[意見なし]

●（城津会長）

[非公開議案はなしと判断]

[本日の傍聴者の申込み状況について、事務局より報告を求める]

●（都市デザイン課長）

[2名の傍聴者がいることを報告]

[傍聴者入場]

●（城津会長）

[傍聴者へ傍聴上の注意事項を伝える]

（３）議 題

●（城津会長）

それでは、次第の３「議題」へと進めてまいります。議題（１）三郷市地域公共交通網形成計画評価案について、事務局より説明をお願いします。

●（野副主任）

[議題（１）について資料に基づき事務局より説明]

●（城津会長）

ただいま、現計画である三郷市地域公共交通網形成計画の評価案につきまして、ご説明をいたしました。説明にもございましたけども、現在新しい計画を作っておりまして、評価をした事業をこれからどうするかということは、この後に議論していきたいと思うのですが

も、まずはご説明申し上げました評価の内容や、説明事項の疑問点、分かりにくかったところ、そういったところに絞って、ご意見やご質問をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

何かご質問等ございませんでしょうか。多田委員お願いいたします。

●（多田委員）

東武バスセントラルの多田と申します。

事業の中で当社が該当するところをいくつか補足で説明させていただきます。

12 ページにある【事業 11】高速バスによる羽田空港・成田空港への運行については、インバウンドも含めて、非常に需要は伸びてきているというところがあるのですが、コロナ禍から運休になりました当社で運行していた新越谷駅からの成田空港線については、未だに運行を再開していない状況でございます。高速バスというのは、需要の見込みがなかなか難しいところもございまして、新規に運行を開始するというのは、非常にハードルが高いところでございます。従いまして、三郷市から運行することについては、今のところ難しいだろうというところがございます。

また、【事業 12】バス運転手の確保・育成ですが、他の産業と比べまして労働時間が長く、また運転手の高齢化も非常に進んでおります。この中でバス運転手の不足に関しては、若い方が自家用車の免許取得をしていない状況もございますので、人材確保は非常に急務であると考えております。

大型二種免許は、普通免許を取得して3年を経過しないと、特例を除いて取得することができないというところがございます。弊社の取り組みといたしましては、高校を卒業する方を事務所で3年間雇用し、その後運転手の適性があるかどうかを見極めて、運転免許の教習代や試験代を補助します。1回約50万円ほどかかるのですが、その費用を会社が負担して、若手の運転手を確保するという取り組みも行っております。積極的に実施しておりますけれども、自治体においても公共交通を継続的なものとする観点から、この事業の継続を実施してもらえればと考えております。

【事業 15】モビリティ・マネジメントについて、市で実施する小学生向けのバス乗り方教室に関して先ほど事務局からご紹介がありました。回数はなかなかできないですけども、年間に1、2回ほど小学校にお伺いをして、バスの乗り方や運転席からの死角の体験などを小学校低学年向けに行っております。また、市のイベントに私共も出向いて、バスの魅力というわけではございませんけども、バスについて発信をさせていただいております。

また、自家用車から公共交通機関への利用促進につながるというところも含めまして、今後も市でモビリティ・マネジメントに関して、可能な範囲で取り組んでいただければと思っております。

●（城津会長）

ありがとうございました。

東武バスセントラルの多田委員から、【事業 11】と【事業 12】、また【事業 15】について、事業者目線で補足説明と実情をご案内いただきました。3つの事業が出ましたので、一旦事業ごとに区切って、ご質問をお伺いしていきたいと思います。

まずは、【事業 11】の関係で、他にご質問やご意見等はございますでしょうか。村上委員お願いします。

●（村上委員）

埼玉県交通政策課の村上と申します。ご説明ありがとうございました。

【事業 11】の評価理由ですけれども、評価が D となっているのですが、7 ページの評価の定義のようなものを見ますと、計画期間内に事業内容の記載項目に着手していない事業については、D となりますという話だと思います。この事業内容というのが、高速バスを運行して検討するという話なので、評価が D だとすると、検討すらやっていないということになります。市役所内での検討もしていないし、事業者での検討もしていないということなのでしょうか。

●（城津会長）

ありがとうございました。

【事業 11】の評価結果について、事務局より詳細な説明をお願いいたします。

●（都市デザイン課長）

ご質問いただきありがとうございます。

【事業 11】につきましてご回答差し上げます。ご指摘のありましたとおり、運転手不足が深刻な現状となっているなかで、また代わりとなる公共交通機関がある中での新規路線の設定は、確かに相当厳しいのではないかと考えております。資料 12 ページにもございますとおり、既存の路線の活用を含めて検討させていただきたいと考えております。

また、検討もなされなかったかというところに関しては、運転手不足が深刻な状況というところで、具体的な話し合いのテーブルに乗せることができなかったこともあり、D 評価とさせていただいております。

●（村上委員）

ありがとうございました。

私の意見としては、【事業 13】も評価が D となっていて、7 ページのところで少なくとも D 評価は記載項目に着手していない事業になっています。D として評価すると、三郷市としては検討もしていないと自己評価していることになると思うので、私は【事業 11】と【事業 13】は C 評価でいいのではないかと思います。

●（城津会長）

ありがとうございました。

事務局といたしまして、辛目の評価をしたというところが、もしかしたらあるのかもしれませんが。いただきましたご意見を参考にしながら、最終的な点検を加えて進めてまいりたいと思います。

それでは、【事業 11】でその他にございませんでしょうか。多田委員お願いします。

●（多田委員）

補足になるのですが、【事業 11】の高速バスについては、本当は運行したいのです。非常に運行したいのですが、先程言ったとおり、人がおりません。

なお、新越谷駅からの深夜バスを 12 月から再開しました。三郷市を通過して流山市まで行くのですが、忘年会時期もございまして、利用実態としては一番多いときで 60 人乗っていました。一番降りる停留所は越谷レイクタウンの周辺が多かったです。

そのため、バスは走れば利用していただける路線もあるというところもあって、成田空港への高速バスについては少し利用状況がよろしくないのですが、羽田空港については非常に利用が多いです。新越谷駅から出ている路線についても、北千住駅から出ている路線についても、非常に利用が多い路線となっております。

本当はこの地域からも運行したいというところは、テーブルの上には上がっているのですが、弊社だけではできるものではないので、今のところ難しい状況です。市からは非常に要望は受けておりまして、何も考えてないということではないので、先ほど言われたとおり、D 評価というと辛口なので、C 評価でいいのではないかと思います。

●（城津会長）

ありがとうございました。

【事業 11】について、他にないようであれば、一旦取りまとめをしたいのですが、まず全体に評価が厳しいというご意見がございました。事務局で素案を出して、幹事会に諮って、本日協議しておりますので、一旦お預かりをして、また幹事会に諮りながら、協議会の中で共有していきたいと思います。

それでは、次に【事業 12】に進んでよろしいでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、【事業 12】バスの運転手の確保・育成につきまして、ご質問やご意見等ございませんでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

また、のちほど機会がございますので、お願いをしたいと思います。

3 つ目の【事業 15】モビリティ・マネジメントにつきまして、ご質問等はございませんでしょうか。高橋委員お願いします。

●（高橋委員）

三郷市 P T A 連合会の高橋と申します。

このモビリティ・マネジメントの件ですが、広報活動という認識でよろしいのですか。

●（城津会長）

まず一旦お預かりします。【事業 15】モビリティ・マネジメントの内容について、今のご質問を踏まえて、事務局で説明をお願いします。

●（今井主任）

モビリティ・マネジメントということで聞き覚えのない方もいらっしゃると思います。少し大雑把な括りにはなるのですが、自家用車から公共交通への転換を促すものであり、広い概念のものとなっております。市の施策としては、関連事業として各種イベントや啓発事業を行っているところでございます。

●（城津会長）

ご意見がございました広報活動も当然含みますし、それ以外にも啓発など広く行っている事業になります。

●（高橋委員）

それを踏まえて少し枠を外れるかもしれないのですが、駅の利用者数とバスの利用者数の評価があったと思うのですが、達成しなかった理由を人口減少に転じたことを挙げられたと思います。この減少幅や達成値までの差異の数値に対して、人口は令和 4 年度比で 800 人しか減少してないと思うのですが、それと比較をして、この目標と現況の差が大きいと思っております。

それに加えて、先ほどのモビリティ・マネジメントのための広報活動は A 評価がついているのですが、これが利用者数の増加に本当に繋がっているのかどうか、目標が達成できなかったことを人口減少と結びつけてしまって本当にいいのかどうかというところの、解析ができていいのかということがお話を聞いて思いました。

もし、見誤ってしまうと政策の方向がずれてしまって、せっかく予算をかけても、明後日の方向に向いている可能性があると思ってしまうとお聞きしました。

●（城津会長）

ありがとうございます。

資料 5 ページの基本方針のうち③駅利用者数と④バス利用者数について、先ほど事務局からは人口減少の話等の要素を入れて説明をしたところです。それと【事業 15】の連動性というのでしょうか。様々な要素がありますけども、全体の連動性を視野に入れながら、どのような考えであるのかというご質問だと思います。事務局からお願いします。

●（都市デザイン課長）

ご質問ありがとうございます。

人口減によるものとそうでないものがあると思います。原因の一つとして、人口減があるかもしれないということです。他にも考えられるとすれば、バス事業者様による一部減便の影響は当然あると思いますので、個別具体的にできるかぎりの精査をしていきたいと考えております。

●（城津会長）

施策ごとに個別の評価をしますが、それぞれ関連がございますので、そのような視点を忘れずにやっていきたいと考えております。

3つの事業に絞ってご質問をお受けしましたが、それ以外の事業について、自由にご質問やご意見等をお願いいたします。

●（志子田委員）

三郷市民生委員・児童委員協議会の志子田と申します。

5ページの件なのですが、先ほど高橋さんがおっしゃっていた人口減少の件で、関係があると思うのですが、市民目線からしますと、高速バスはそんなに頻繁に使うものではありません。充実した方が良いには違いないのですが、やはり自分の住宅から、市役所、駅などへのバスが一番重要であると感じています。

5ページにある鉄道の方はあまり減っていないのです。これは在宅勤務が出てきているところがあるかと思います。バスの方は人口減少で説明できないくらい大きく下がっています。バスの運転手さんの確保は非常に難しいことは分かっています。

公共バスの重要性をよくご認識されていると思いますけども、自宅から駅、自宅から役所、自宅から病院、自宅から商業施設、そのようなところを重点的にお願いできればと感じています。

●（城津会長）

ありがとうございました。

1点目のご意見としては、そんなに頻繁に高速バスは使うものではなくて、日常の生活の足に注力してやっていくのが良いのではという市民目線のご意見でございました。

あとは、人口減の話もありましたが、目標に至らなかったところについての分析に関するご意見だったと思います。

まず、高速バスと日常の足ということについて、感想も含めて何かご意見等はございませんでしょうか。事務局から何かありますか。

●（都市デザイン課長）

高速バスよりも日常の生活の足というお話でしたが、私もそのように思っております。

市民の声といたしまして、路線バスの増発を希望する意見や声が非常に多く寄せられます。我々も事業者の皆様様の限界と言える経営努力の状況をお伝えさせていただきながら、また公共交通維持のために赤字路線にも投資いただいている事業者の皆様方の状況をお伝えしながら、まずは市民の皆様にはできるだけ公共交通であるバスをご利用いただきたいですとお願いをする場面が度々ございます。

これまで事業者の皆様方からは、経費の問題だけではなくて、どうしても運転手不足の現状というのが大きな課題であるということをご教示いただいております。我々も認識をしております。

そのような事情があると思いますが、他にも多様な手法があり得るかと思います。今後、地域の皆様方の声を実際に聞くような場面を設ける必要があると考えております。

●（城津会長）

志子田委員からご意見をいただいたように、市民の皆様のご意見を伺う機会が非常に大事だと思っております、このようなご意見を幹事会に戻して、事業者様と検討することを考えております。

また、鉄道の乗降客数のお話がありましたので、本日は首都圏新都市鉄道株式会社様がお見えになっていますので、乗降客数は戻っていますけども、もし可能であれば乗降客数の関係についてお話をいただけると助かります。よろしくお願いします。

●（相川委員）

つくばエクスプレスを運行しております首都圏新都市鉄道株式会社の相川でございます。

先ほど高橋委員からお話がありました5ページ目の駅利用者数について、事務局より人口減少等を理由に目標が達成できなかったというお話をされていまして、そこがずれていると問題ではないかとご指摘ございました。

駅利用者数の実績は、まだ令和6年度はございませんので、令和5年度の実績で書いていらっしゃると思います。平成30年度の当初はコロナで、私どもつくばエクスプレスやJR様も駅利用者数はガクンと落ちまして、令和5年は戻っている最中でございます。また、令和5年度の実績よりも令和6年度実績の方がもう少し上がっているという形でございますので、目標値がどうしてもコロナを見据えていなかったのも、ずれがあるのではという認識でございます。

令和5年度実績で三郷中央駅は15,114人という数字なのですが、令和6年12月時点では15,500人となっています。この数字はコロナ前の平成30年や令和元年よりも高い数字で、私どもは駅利用者数が戻っている形でございます。その後の見込みは何とも申せませんが、先ほどのモビリティ・マネジメントの効果で上がっていらっしゃるのか、私どもの沿線では全体的に人口が増えていますので、つくばエクスプレス周辺の住民が増えているのか、なかなか分析までできないのですが、コロナ前よりも良い数字が私どもは出ている状況でございます。

●（城津会長）

ありがとうございました。

それでは現計画の評価について、その他にご意見があるようでしたら、お願いいたします。渡辺委員お願いします。

●（代理出席：渡辺）

京成バスの渡辺でございます。

5ページにある②の運行情報の市民満足度についてのご質問なのですが、C評価ということで、他のC評価の理由については、お話がありました人口減少が原因の一つであったりとか、バスの減便も避けられないものであったりとか、何となくその理由が分かったところです。一方、②は元々27.3%の満足度があって、現況値では20.8%なのですが、この間に案内情報を増やしたことによってそのことが何か駄目だったのかとか、何もしなかったことによって下がったのかとか、この下がった理由というのが、なかなかイメージができて

いません。事務局様でどのように分析をしているのかということをお教えいただきたいです。

●（城津会長）

ありがとうございます。

事務局より詳しい分析結果があれば、説明をお願いいたします。

●（今井主任）

アンケート結果ですので、確定的なことはなかなか申し上げられないのですが、あくまで推測にはなるのですが、この当初値についてアンケートを行ったのは、コロナ前の平成30年度でございます。また、現況値については昨年度に実施した状況となりますので、コロナの前後ということになります。この後に議題でご説明をさせていただきますが、グローバル交通という元々運行していた事業者が撤退されて、埼玉観光様を導入したり、路線バスの運行サービスが地域によって、かなり差が出てしまっている状況でございます。

そのため、情報案内に対するものだけではなくて、バスの便数などの運行サービス全体について、当時と比べるとサービスが低下している地域もございますので、それが反映された結果であると感じております。

●（城津会長）

渡辺委員いかがでしょうか。

●（代理出席：渡辺）

そうすると運行情報案内に対するということではなくて、運行サービス全体としての満足度になるということでしょうか。

●（今井主任）

アンケートの調査項目としてはこの形でお伺いをしていたと思うのですが、実際にお答えしていただいた皆様の感情としては、サービス全体が低下しているので、そこにも結果として現れてきているのではないかと考えております。

手元に当時尋ねたアンケートの設問表がございませんが、そのような形での調査であったと記憶しております。

●（代理出席：渡辺）

分かりました。もう少し分かりやすいような②の表記の方が良いのではないかと思います。

●（城津会長）

ここでリモートの鈴木委員から、ご意見があるようなのでお願いしたいと思います。

●（鈴木委員）

丁寧な説明をいただきましてありがとうございました。

事業の評価全体に対してですけれども、今の評価のシステムでは事業内容で挙げられている項目が何個達成できたかというところで、AからDの評価が設定されていて、全て達成している場合にA評価になると思います。

この評価方法を深掘りした方が良いと思っております、事業内容に記載されているそれぞれの項目についてどれくらい達成できただけでなく、実施の困難さや、重要性について総合的に評価してはどうかと思います。また、重要性については、計画を策定したときは重要だと認識していたものが時代の変化により、そこまで重要ではないものに変化することも考えられます。このように事業内容のそれぞれに対する項目について、実施できたかどうか、実施の難しさ、実施の重要性を総合的に見て、評価を決めていただく方が良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

●（城津会長）

ありがとうございます。

少し途切れたところもありましたので、私の解釈で申し上げます。もし違いましたらお伝えください。

事業の評価をそれぞれしましたけれども、事業の中にも細かい色々な取り組みがございます。取り組みをそれぞれ評価することと併せて、事業内容の重み、その重要性なども加味した評価をして、事業ごとに総合評価をしてはどうかということだったと思いますが、よろしいでしょうか。

●（鈴木委員）

その通りです。

●（城津会長）

それぞれの事業の評価の仕方についてのご提言であったと思います。事務局からいかがでしょうか。

●（都市デザイン課長）

ご提言いただきありがとうございます。

前回の計画策定時から、時間が経過したことにより状況が変わっているところが多々あると思います。それぞれの事業に重みを持たせて見直すというやり方についても、検討をさせていただきまして整理したいと思います。

●（城津会長）

評価の内容や評価の仕方について、もう少し細かくしながらということをご回答したのですけれども、いかがでしょうか。

●（鈴木委員）

例えばですけれども、【事業 10－2】で申し上げますと、路線バスの定時性確保のうち、バス専用・優先レーンやP T P S の設置など様々な項目がございますが、それぞれで何が出来ていて何が出来ていないのかというところを評価していただいたうえで、総合評価をすることがよろしいのではないかと思います。

●（城津会長）

それでは、お預かりをして事務局で点検をしてみます。その点検結果について、また協議会の中で共有していきたいと思います。

●（鈴木委員）

もう一つよろしいでしょうか。

評価指標の達成状況についてですけれども、結構厳しめに評価されているところがありました。次期計画に向けて、この評価指標自体が適切だったか、このような評価であった方が良かったのではないのかという指標自体の評価についても、内々で構いませんので検討していただけるとありがたいと思います。

●（城津会長）

ありがとうございます。我々が設定した評価の考え方や評価の指標等について、一度振り返りをして、共有した方が良いというご提言だったと思います。ご意見をお預かりして、検討してまいります。

それでは、議題 1 のなかで他に何かございますでしょうか。茂呂委員お願いします。

●（茂呂委員）

この資料を拝見しまして、客観的に見てよくまとめてあります。感謝申し上げます。

バスの市民の満足度が悪いのではないのかということについては、バス運転手さんも親切ですし、運転の仕方も丁寧ですし、言うことは何もありません。ただ、この運行サービスの満足度については、乗りたい時間帯に乗れない不安があると思います。あとは、自分の家からバスに乗るのは非常に大変です。そういうところを考えてみますと、バス会社の運転手さんの努力とか、そういう対応を考えますと、これはB評価でもいいのではないかとそのような感じがしています。

それと、高速バスのことですが、三郷中央におどりプラザ2階にパスポートセンターが設けられ、パスポートの申請が容易となっています。羽田・成田空港へ高速バスがあれば利用者にとって助かることは分かりますが、まずは三郷市内のバス路線が充実して、利便性が図られるようになってから、高速バスのことを検討しても良いのではないかと思います。

過度な自家用車の使用という文言がありましたけれども、三郷市で仮にバス路線が良くなって、どこへ行くにも便利になって、バスによって帰る、公共交通を使いましょうということになっても、相手の駅に行ったときにまた不便なのです。そうすると、どうしても自家用車での通勤になると思うのです。ですから、その辺もよく考えていただきたいのと、バス路線がこんなにドライバーが不足して、もう運行できない。バスを無理に通すと、バス会社は

赤字になってしまいます。そういうところをどういうふうに解決するかというのは、やはり国できちんと見通しを立てて考えてもらわないと、いくらやっても解決できないのではないかな。いくら市でバス事業者さんをお願いしますといったところで、どうにもならないわけです。結局、この資料を見ても、5年、10年前もこういうことはあったのではないかな。まだ解決されてないから、こういう問題が起きているのではないかな。そうすると、ここで話し合っても、しっかり話合っても、5年、10年経っても同じような問題がまた出てくるのではないかと私はそのように感じています。

それと、運転免許を返納するとありますが、高齢者は相当運転免許を返納しております。ところが、返納をして、いざ自転車に乗ってみますと、道路事情が非常に危ない。自転車が通るところの歩道が狭い。先ほど、バスの停留所があるところは整理してということはありませんでしたが、まず自転車を乗りなさいというときは、やはり道路事情、安心して自転車が乗れるような状況を作っていただきたいと思います。

それと、13ページの【事業14】の中で運転免許自主返納制度の導入検討とあります。今後の課題と方向性というなかで、高齢者限定乗車券の購入促進を図っていくとありますけども、これは具体的に何か考えておられるのでしょうか。これはいつも図っていくということだけでは、何もならないと思うのです。図っていくとは、具体的にはこういうことで、予算編成をして、こういうことで出来ていくのですということをやっていただかないと、これは乗車券の購入促進に繋がっていかない。また、バスに乗りたくても乗れない方は大勢いると思うのです。

それと、もっとバス路線を増やしていただきたいと思うのは、三郷市でイベントがあるときに、バスがなくて乗れない。また、今日のように市役所で会議があっても、なかなか交通手段がないから来られない。タクシー会社さんには申し訳ないのですけれども、1回2,000円、往復4,000円を使ってまで、会議に出られない。ですから、もっともっと市民のまわりのことを考えていただけるなら、多くの市民が多くのイベントに参加できるような便宜性、そのようなことも図っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●（城津会長）

ありがとうございます。5点ございました。

まず、バスの満足度がB評価でも良いのではないかとということで、運転手のサービスはすごくいいけども、満足していないのは本数が少ないため乗りにくいとか、乗りたいときに乗れないとか、そのような改善点が不満足の部分であるので、評価はBでも良いのではないかとのご提言であったと思います。これについては、皆様の共通の見解だと思いますので、事務局でお預かりしたいと思います。

2点目の高速バスについては、日常使いのバスの充実後で良いのではないかとのご提言だったと思います。こちらにつきましても、一旦お預かりをしてまいりたいと思います。

3点目の自家用車の使用に関して、市でいくらバスのことを考えても、国からの支援がないと駄目ではないかというご提言だったと思います。あとでご意見があれば、伺ってみたいと思います。

あと、免許返納の関係で道路が狭くて自転車に乗れないということが4点目であったと思います。道路につきましては、当然過去にも議論になっておりまして、バスの走行環境や自

転車の走行空間も改善していこうと、そのような取り組みは預かっていきますので、そこは期待をしていただければと思います。

最後に、乗車券の利用促進や購入促進については、事務局に答えを求めたいと思います。

少し駆け足で振り返りましたが、国で法律を改正して、支援策を講じていただいております。もしよろしければ、ご案内をしていただけると助かるのですが、高木委員、お願いできますでしょうか。

●（高木委員）

ご説明ありがとうございました。

国の方でも、最初の会長の挨拶にもありましたように、交通空白解消に向けて、色々取り組みを進めているところでございます。自治体様に向けて、「交通空白」解消・官民連携プラットフォームのご案内を差し上げているのですが、地域交通の課題について、将来的な情報収集の目的でも構いませんので、国、県、民間事業者様を含めて、勉強をしながら、マッチングをしながら、プラットフォームを作って事業を進めていこうということをやっております。全国の自治体に声をかけておりますので、もしも可能であれば、参加の方よろしく願いいたします。

●（城津会長）

ありがとうございます。

国、県、市も、全国的にも一緒に交通課題がございますので、連携をしてやっていきたいと思っております。

各事業者様で行っております高齢者限定乗車券の購入促進のことについて、事務局から何かありますか。

●（今井主任）

まず、現状といたしまして、高齢者限定の乗車券ということで、例えば、東武バス様ではラブリーパスという高齢者限定の定期券や、京成バス様の方でもダイヤモンドパスという高齢者の方向けの割引された定期券の販売を実施いただいている状況でございます。

市にお問い合わせがあった場合は、こちらのご案内をしているというのが現状でございます。市で行っている事業といたしましては、運転免許を返納された方に対象事業者の回数券を1万円分お配りする事業を実施しております。定期券が対象になっていないということもございますので、いただいたご意見を参考に、今後検討していければと思っております。

●（城津会長）

茂呂委員の意見全体を通して、バスの乗りにくさや不便についてのお話であったと思います。本当に大事な会議の本筋のことであり、しっかり検討や議論をしていければと思いますので、引き続きよろしく願いします。

それでは、少し時間も押してきましたので、もし差し支えなければ、次の議題に進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、議題（２）へと進めてまいります。

三郷市地域公共交通計画の全体構成案について、事務局より説明をお願いいたします。

●（都市デザイン課長補佐）

[議題（２）について資料に基づき事務局より説明]

●（城津会長）

ありがとうございます。事務局から説明がございました。

議題（１）の説明内容と少しかぶるかもしれないのですが、ご説明いたしましたのが新しい計画の構成、目次のような形となります。この中に先ほどの現計画で取り組んできた事業を継続していくべきかどうかも含めて、この議題の中でご意見をいただきたいということでございます。今後の検討の大きな参考になりますので、ご意見を賜ればと思います。

皆様、ご意見はいかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

●（高橋委員）

この協議会自体が地域公共交通活性化を銘打っておりますけれども、達成したというのは何になるのでしょうか。移動に困る人がいなくなることが目標なのか、バスの事業者さん達が健全なバス路線を運営できるようになることなののでしょうか。

●（城津会長）

ありがとうございます。

協議会の目標や意義について、改めて確認をしたいと思いますので、事務局からご説明をお願いします。

協議会の現計画に書いてあるのですが、市民の皆様と我々行政と、事業者の皆様、その３者が連携をして、地域公共交通を維持して、活性化していこうということなのですが、事務局いかがですか。

●（今井主任）

それでは、計画策定時に計画の中でも目標の設定がございますので、そちらを読ませていただきます。

まちづくりや観光振興等の地域戦略との一体性を確保し、地域全体を見渡した総合的で面的な公共交通ネットワークを形成すること、市民の協力を含む関係者の連携といった方向性が示されたところでございますので、このような背景をもとに、将来に渡って持続的かつ安定的に公共交通を維持・発展させ、まちづくりなどの地域戦略と一体となった公共交通の活性化、利用促進を図るため、公共交通計画を策定するとございます。

少し堅苦しい言葉にはなりましたが、公共交通の活性化は自治体だけで解決できるものではございません。バス事業者様、地方自治体、利用者の皆様、関係者の皆様にお集まりいた

だいて、それぞれで意見を出し合って、活性化や利用促進を図るために設置されたものでございます。

●（城津会長）

少し硬かったのですが、計画を策定したら終わりではなくて、点検や管理をしていこうと、次期計画を策定するときは皆様の意見を出し合っていこうと、そのような協議会となっています。

●（高橋委員）

ありがとうございます。

先ほど、茂呂さんがおっしゃっていましたが、高齢者は彦成地区が主眼となってくるとは思うのですが、とにかく足がないと、高齢者の方に自転車に乗れと言いましても、うちの母は70歳を超えているのですが、とても自転車に乗せられる状態ではございません。他にもやはり高齢者の方の声を聞くと、自転車を使ったバスへのアクセスというのはあまり現実的ではないのかなと思います。車に乗っている側としても非常に怖いというのがあります。

他方、バスを増やすにしても、先ほど事業者の皆様から声があったのは、運行するには人がいないということをおっしゃっていたと思います。人がいれば何とかできるのであれば、そこを何とかする方向の計画や予算の振り方を考えた方がいいのかなというふうに感じました。実際、高齢者の優遇バスを出したとしても、どこで乗ればいいんだというふうに言われてしまうと、結局車を手放せない。チケットをもらったけれども、バス停までは遠くて、とてもバスは不便だから使えないということだと、なかなかバスへ切り替えできないというふうに思っております。一方、周りの自治体を見てみると、私は和光市に通勤しているのですが、和光市の方では自動運転バスの実証が始まろうとしています。隣の茨城県境町では自動運転バスが実際に走っていて、ほぼ問題なく運行しているという実態がございます。少子化は将来も止まらないので、そういった方向で、人がいない状態でもバス自体を確保するという方向に舵を切るという案がないのかなと思います。現況のバス事業者の方からすると競合すると思うのですが、市として考えるのであれば、市民の足を確実に確保できる方法というのを、ぜひ考えていただきたいと思います。実際に私も市内でバスに乗ると、本数が少なくて、ドキドキしてしまいます。これを逃したらどうなるのだろうと、帰って来られるのだろうか、その状況でバスを使ってくれというのはなかなか難しいのかなというふうに思っております。

他方、自動運転は色々不安等もあるかと思うのですが、やはり試していかないと、現実世界で実装されていかないというのがあります。大きな会社ですと、二の足をなかなか踏んでしまうのですが、自治体と組んでやっているところは全てベンチャー企業が多いので、そういうところは実験できる場所と予算もやはり必要としているのです。

現状や通常のバスという手段だけではなく、そのような新しい方法も検討に入れていかないと、解決の見込みが少しないのではないかという感覚を、このような話を見て思っていて、その辺に手をつけていくという方向は検討されているのかなというところをお聞きしたいのと、ぜひ検討していただきたいという要望があります。

●（城津会長）

ありがとうございます。

高橋委員から公共交通が抱えている課題を的確にお示しいただいたと思います。それに対する対策について、市がどのように示していくかという考え方についてのご質問だったと思います。事務局お願いします。

●（都市デザイン課長）

ご質問いただきありがとうございます。

自動運転のお話などもいただきました。国土交通省様の資料のうち、上段の右の方にあります地域旅客運送サービスということで、公共交通機関の路線バス、コミュニティバスに加えて、福祉輸送、スクールバスなど、いくつかの例が挙げられております。このようなことも含めまして、先ほども申し上げましたが、市内といってもそれぞれの地域に様々な独自の課題がございます。また、地域の皆様が公共交通維持のために何が出来るだろうかということをもまず知ることが必要になってくると思っています。只々、路線バスに頼るということなく、地域の皆様方のご協力や力が確実に必要になってくる場面と思っております。

そのため、このことも含めて、新計画には新たな多様な手段について、検討内容として含めていきたいと思っています。そうは言っても、地域の方々の力をただお借りしたいというだけであっても、それでは持続可能性はかなり低くなる部分があると私は思っております。地域の力だけに頼らない行政側のサポートとして何が出来るのかということは、併せて考えていかなければならないと考えております。

●（高橋委員）

地域ごとの課題とおっしゃったのですけれども、それでいうとアンケートの方は地域ごとに項目を変えて出すようなことを計画されていますか。

私はさつき平地区と泉地区を利用しているのですけれども、そこでの課題と先ほどあった彦成地区の課題のように買い物にすら行けない、バスや車がないといけないという状況があることを聞いております。また、市全体として三郷市は南部、中部・北部と3拠点があるような状態ですけれど、先ほどありましたけれどもイベントをやっている、行ったら帰れないという状況があります。

なので、テーマに分けたとか、地区ごとに分けたアンケートの設問にして、積極的に課題を吸い上げられるようなアンケートにしていかなければ、本当の課題が見えてこないのかなと思います。先ほどの自動運転に関しても、地域の方々が選択肢を知らない可能性があります。そういったものもあります、あったら受け入れられますかというように、積極的に意見を吸い上げられるようなアンケートにしないと、またぼやっとした結果になってしまうのかなという危惧がありますので、その辺について少し伺いたいと思います。

●（都市デザイン課長）

アンケートの設問を地域ごとに変えるといったやり方が良いのか、アンケートではなく直接声をいただく形が良いのか、それがワークショップの形がいいのか、説明会の形がいいのか、今後検討したいと思います。我々もどのような意見があるのかというのは、必ず把握す

る必要がございますので、もちろんアンケートを使用するかもしれませんが、アンケートだけでは把握するには難しく、限界があるというところは感じておりますので、色んなやり方を考えてみたいと思います。

●（城津会長）

地域課題の把握の仕方であるとか、住民への情報提供のあり方だったと思います。このあとに計画策定を進めていく中で、市民のご意見を伺う機会がありますので、どのようにやっていくか、参考にさせていただきたいと思います。

その他はいかがでしょうか、志子田委員。

●（志子田委員）

全体構成としては、ご提案の内容でよろしいのではないかと考えています。

3章の計画の基本方針と基本目標、4章の目標達成に向けた施策ということで、公共交通ではバスが課題と思っているのですが、国土交通省の資料の中にコミュニティバスやデマンド交通がございました。これらをやはり実施できるかどうかは検討した後になると思うのですが、計画として入れていただければというふうに考えています。

●（城津会長）

ありがとうございます。

既存バスとの調和が前提になると思いますけども、志子田委員から新しい移動手段を計画に取り入れてはどうかというご提言がございました。事務局から何かありますか。

●（都市デザイン課長）

多様な手段について組み込んでいきたいと考えておりますが、バス路線の力をどうしてもお借りしたい地域などもあると思いますし、逆に例えば町会や組織の力を借りなければいけないところもございます。様々なあり方について、検討に組み込んでいきたいと考えております。

●（城津会長）

バス、タクシー、鉄道、それぞれの守備範囲や適性があると思います。それらをうまく取り入れて、全体のバランスを取りながら計画を作ってまいりたいと思います。

その他、いかがでしょうか。川島委員お願いします。

●（川島委員）

埼玉観光の川島と申します。

彦成エリアで、5年前よりバス路線事業に参入させていただきました。三郷市様との業務委託が昨年12月末までで終了したのですが、3ヶ月延期をさせていただきました。今後、市で新しい事業として何かお考えがあるのかどうかお聞きしたいです。

●（城津会長）

ありがとうございます。路線バス確保維持事業に関する市の考え方について伺うものだと思います。事務局いかがですか。

●（都市デザイン課長）

そのあたりも含めまして、計画策定の中で考えていきたいと思っております。

非常にご好評いただいております。彦成地域の皆様方には大変ありがたいですという声を沢山いただいております。今後のあり方については、計画策定の中で、地域でできることがあるかもしれませんので、そのようなことを含めて考えさせていただきます。

●（城津会長）

多くのご意見をいただいております。

議題（１）と（２）ということで、計画策定についてご意見をいただいております。時間も少しありますので、一旦ここで切りたいと思うのですが、まだ計画関係のご意見があるようであれば、後ほどでもお受けいたしますので、この場につきましては、議題（１）と（２）のご意見は一旦終了とさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、議題（３）路線バス確保維持事業の継続について、事務局よりご説明をお願いします。

●（今井主任）

〔議題（３）について資料に基づき事務局より説明〕

●（城津会長）

説明にもございましたが、この路線につきましては協議会の中で合意形成を図って、運行をスタートしております。当初は自主運営を目指していたのですが、現実的に難しいということで、来年度の令和７年４月から８年３月までの事業継続をしたいという考え方でございます。

これにつきまして、ご意見やご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

〔意見なし〕

ありがとうございます。

それでは議題（３）につきまして、以上とさせていただきまして、方針のとおり運営していきたいと思っております。

続きまして、その他に進めてまいります。事務局より報告等がございましたら、お願いいたします。

●（都市デザイン課長補佐）

〔その他について参考資料に基づき事務局より説明〕

●（城津会長）

事務局より報告がございました。ご質問等はいかがでしょうか。

〔意見なし〕

ありがとうございます。

続いて、会議の開催前にマイスカイ交通株式会社の山中様より、運行ダイヤの関係で情報提供したいと伺っておりますので、山中様お願いします。

●（代理出席：山中）

只今、ご案内がありましたマイスカイ交通担当の山中です。

今日の協議会の中で委員の皆様のご意見等を十分に承知しながら、これからお話をする内容はそれに反するようなことだと思っておりますので、よろしく願いいたします、と申しますのは、運転手の要員不足ということがございますけれども、私の会社でもこの要員は非常に厳しい。その中で、今回運転手が業務中に倒れまして長期入院、あるいはその症状が悪いため職場に復帰する可能性は非常に厳しいという状況です。それと、健康上の問題で2月15日に退職する運転手がいます。非常に今まで厳しい状況で、お客様に運行回数等のご迷惑はかけないよう努力してまいりましたけれども、現行の運行状況を確保するのは非常に難しいという判断の中で、今回の事業計画を実施したいということで届出を出しております。

具体的に申しますと、金町線は三郷駅南口から市役所、そして三郷中央駅を通りまして、金町駅南口までを運行していますが、三郷駅から金町駅を往復3回、三郷中央駅から金町駅までを2回減回します。また、ピアラシティ線等々がありますけれども、三郷駅南口からピアラシティを通りまして、巡回をいたしまして、また三郷駅南口に戻ってくる路線の時計回りを右循環、その反対を左循環とお客様にご案内しておりますけれども、左循環を1回、右巡回を4回減回したいということについて、実施を予定しています。この実施は2月20日を予定しております。

その前に、お客様に案内、あるいは時刻の変更等々を掲示いたしますけれども、非常に厳しいお叱りなどお客様にご迷惑をかけますけれども、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

●（城津会長）

マイスカイ交通様から減便のご説明がありました。ご質問等はございますでしょうか。

〔意見なし〕

それでは、詳細は後ほどご案内があると思っておりますので、よろしくお願いしたいと思いま

す。

先ほどはご意見を打ち切るような形になり申し訳ございませんでした。以降、気をつけてまいります。これで最後になります。何かお気づきの点がございましたら、テーマを定めませんので、ぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。

委員の皆様におかれましては、長時間にわたり、大変活発なご意見をいただきましてありがとうございました。また、円滑な議事の進行にご協力いただき本当にありがとうございました。

それでは、事務局に進行を開始いたします。

(5) 事務連絡

● (まちづくり推進部副部長)

続きまして、次第の(5)事務連絡といたしまして、1点ございます。

次回の協議会の開催についてご案内させていただきます。委員の皆様におかれましては、任期の満了日を令和7年4月9日までとさせていただいておりますが、それまでの期間については、現時点では協議会の開催は予定しておりません。今後、協議会の開催を予定することになりましたら、改めて通知をもってご案内させていただきます。

また、皆様ご多忙の中と存じますが、今後、委員の改選に当たりまして、手続きの案内をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(6) 閉 会

● (まちづくり推進部副部長)

それでは、長時間にわたりありがとうございました。以上をもちまして、閉会といたします。皆様ありがとうございました。